

1) 特に認められません。

2) 内視鏡を施行しましたが、術前術後に変化はありませんでした。

9. 内視鏡下水素クリアランス法による胃血行動態一肝疾患患者における検討一

(消化器内科)

○足立ヒトミ・伊藤 弥生・大田由己子・
白鳥 敬子・丸山 正隆・黒川きみえ・
小幡 裕

目的：慢性肝疾患，特に肝硬変患者は，胃潰瘍の合併が多く，また胃粘膜の表層性変化（発赤，浮腫，ビラン等）も多くみられる。これらの病変の発生には，慢性肝疾患時に生じる門脈圧亢進状態による血行動態の変化が何等か関連していると思われる。そこでまず肝硬変症及び慢性肝炎症例と対照との胃粘膜血流量を比較検討した。

方法：対象は，肝硬変（肝癌合併6例を含む）21例，慢性肝炎12例及び対照として慢性肝疾患のない9例である。血流測定は，内視鏡下に水素クリアランス法で行なった。測定部位は，①胃体上部大弯，②胃前庭部大弯の2点とし，鉤状型の白金電極を粘膜に刺入して行なった。

結果：肝硬変群では，体上部で $71.8 \pm 26.0 \text{ ml/min/100g}$ ，前庭部で $64.1 \pm 24.9 \text{ ml/min/100g}$ ，慢性肝炎群では各々 $93.2 \pm 28.4 \text{ ml/min/100g}$ ， $76.9 \pm 21.8 \text{ ml/min/100g}$ であり，対照では各々 $98.4 \pm 41.2 \text{ ml/min/100g}$ ， $71.2 \pm 33.0 \text{ ml/min/100g}$ であった。肝硬変群では，体上部，前庭部ともに血流量の低下傾向がみられたが，慢性肝炎群では特に変化がみられなかった。

次に肝硬変群のうち，体上部及び前庭部の各々について発赤の強い群と弱い群で比較すると，両部位ともに発赤の強い群で血流量の低下傾向がみられた。

10. HB ワクチンによる HBs 抗体 response の検討一特に HLA 抗原との関連について一

(消化器内科)

○橋本 悦子・栗原 毅・金子 篤子・
山内 克己・久満 董樹・小幡 裕
(輸血部) 十字 猛夫

目的：HB ワクチンによる HBs 抗体 response の状況を HLA 抗原との関連を中心に検討を加えたので報告する。

方法：対象は167名の HB ワクチン接種者で，初回4週および24週後にワクチン接種を行ない，HBs 抗体を測定し，High responder(4週で HBs 抗体陽転者)，

low responder(28週で HBs 抗体陽転者)，no responder(28週で HBs 抗体陰性者)の3群に分け，HLA 抗原を同定し検討した。

結果：ワクチン接種後の side effect は，局所の疼痛，発赤のみで，ワクチンの安全性が確認された。そして85% (142名/167名) のワクチン接種者は HBs 抗体陽転化し，その有効性も確認された。High responder(41名)では，Bw39-Cw7 と，No & low responder(36名)，No responder(23名)では，Bw52-DRw9 との有義の相関が，それぞれ認められた。また，PHA 法の HBs 抗体の力価で29以上の高力価群(32名)では，B7-Cw7-DR1-MT1 と，23以下の低力価および陰性群(45名)では Bw52-DR2 との有義の相関がそれぞれ認められた。High responder と高力価群，No & low responder と低力価および陰性群は，ほぼ同様の HLA 抗原との相関を示した。High responder で注目され，有意に高頻度を示した HLA 抗原は，No & low および No responder では低頻度で，力価別でも同様の傾向であった。中間 response 群，中間力価群はいずれも日本人の HLA 抗原頻度と差をみとめなかった。

質問

(第二生理) 菊地 鏡二

1) Sample を選ぶ場合，男性女性で年齢分布の差はないか？

質問

吉岡守正会長

2) 女性が high responder，男性が low responder というのでは推計学的に有意ではないのではないか？

3) 特殊な HLA 抗原をもっている人は一般的な抗原に対しても high responder を示すのか，HB にだけ high responder を示すのか？

応答

(消化器内科) 橋本 悦子

1) 対照は医療従事者で年齢の差はないと思われる。

2) 推計学的には有意でないかもしれない。

3) high responder，low responder を示した HLA 抗原は破傷風でもそれぞれ high，low を示した。

〔綜 説〕

11. 白血病における血液幹細胞

(内科1) 溝口 秀昭

末梢血には赤血球，顆粒球，単球，リンパ球，血小板が流れているが，それは骨髄中の血液幹細胞に由来する。血液幹細胞は分裂によって自分と同じ細胞を産生する自己複製能と各血球へ分化するという2つの性質がある。

血液幹細胞は芽球様の形態をし，培養によって各血球からなるコロニーを形成するので定量的に測定でき